

東北海区沿岸水温予報(2002年)

海域	経過 (8~11月)	現況(11月下旬~ 12月上旬)	見通し (12~2月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	沿岸定地水温は、9月やや低め-平年並、10月平年並-やや高め、11月平年並-やや低めこの期間、定期観測なし。	津軽暖流域の水温は平年並。 津軽暖流の東方への張り出しはやや弱め(尻屋線)。	津軽暖流域の水温はやや弱め-平年並。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並。	12月の対馬暖流の勢力が平年並(各層水温も平年並)であること、定地水温の現況等から判断。	10月頃から定置網等にエチゼンクラゲが入網し、操業に支障が発生。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	8月:表面では概ね平年並、100m深では、県中部沖合で平年並~やや高め、その他の海域では平年並~やや低め。 9月:表面では平年並~やや高め、100m深では県中部以北でやや高め~高め、県中部以南で平年並~やや低め。 10月:表面では平年並~やや低め、100m深ではやや低め~低め 11月:表面では全域平年並~やや低め、100m深では県南部沖合で低め、県北部で平年並~やや高め。	12月の観測では、表面では概ね平年並、100m深では平年並~やや高めとなった。また、県中部沖合の300m深で2台の冷水が見られる。	予報期間の当初は表面、100m深共に平年並~やや高めに推移。その後は、表面は沿岸では平年並で推移、沖合ではやや低め~低め、100m深は平年並~やや低めで推移。	予報期間の当初は現況の海況が続くと予想される。その後については、JAFICの日本近海中層水温分布図で、200m深で親潮系冷水の沖合からの張り出しが見られる他、親潮第一分枝の張り出しによる影響が予想される。	沿岸全域で定置網にエチゼンクラゲが大量入網した。沖底でスルメイカが大量に漁獲された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	8月:表面は平年よりやや低め~低め、100m深は平年よりやや低め~極めて低め。 9~10月:表面は概ね平年並、100m深は平年よりやや低め~極めて低め。 11月:表面は平年並~やや低め、100m深は142'E以西の沿岸でやや高めの他はやや低め~極めて低め。	表面は38'30N以北の海域では概ね平年並、38'30N以南の海域では平年並~やや低め。100m深は39'N海域ではほぼ平年並だが、38'30N以南の海域では平年並~極めて低め。	表面、100m深ともに平年並~低めで推移する。	今年に入ってから三陸沿岸海域に冷水域が存在し、7月からは金華山沖に継続して冷水域が停滞している。この冷水域は今後も金華山沖周辺に残存すると考えられ、この影響を全面的に受けると考えられる。宮城県沿岸での類似年なし。	沖底でスルメイカ大量漁獲。 県北定置網にエチゼンクラゲが多数入網。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	8月:前月に引き続き親潮系冷水の勢力が強く、低め基調が継続。9月:親潮系冷水の波及は弱まったが、下層には依然として冷水が分布した。10月:概ね平年並の水温となったが、下層には局所的に冷水が分布し、県北部の距岸30海里付近で低めとなった。11月:親潮系冷水の勢力が強まり、県南部沖合を中心に低め基調となった。黒潮系暖水の波及は弱い。	12月:依然として親潮系冷水の勢力が強く、県中北部の距岸30~50海里付近で極めて低めとなった。またその下層(100~150m深)には1~2台の冷水が分布していた。	期間の前半は、距岸25海里以内の沿岸で平年並~やや低め、沖合では低めで推移。 期間の後半は、距岸25海里以内の沿岸及び県中北部沖合で平年並、県南部はやや低めで推移。	親潮系冷水の勢力が強めであり、親潮の季節変動からみても強勢となる時期のため、今後とも強めで推移すると見込まれる。また、黒潮流の勢力は弱く、沿岸部への張り出しも弱い。以上より、県南部沖合は、黒潮の波及が弱く、親潮系冷水の南下により低め基調、その他の海域は親潮系冷水の影響を受けるものの平年並、とした。	<ul style="list-style-type: none"> 9月の底曳漁解禁後、マガレイが多く水揚げされた。 10月上旬、通常ならば150m~200m深付近で漁獲されるミギガレイ(通称ニクモチ)が、100m以浅で漁獲され、比較的大型の個体が多かった模様。 7月中旬~11月、まき網による水揚げ(属地)がほとんど見られず、わずかにサバ類・中羽イワシ混じりが水揚げされる程度。本県沿岸での漁場形成もほとんどみられなかった。 秋季のカタクチシラス漁が、非常に豊漁であった昨年より少ないものの、好調で推移。 竿釣、まき網によるカツオ水揚げが平年より少ない。また、沿岸曳釣によるカツオ漁場形成が皆無、メジマグロも不調。 11月末現在の福島県属地サンマ水揚量は、比較的豊漁であった昨年を上回る約5,600t。

常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿 岸; 茨城水試 発表)	8月: 沖合域(141°E以東)に親潮系冷水が差し込み、水温は沿岸域を除いて「低め」であった。9月: 親潮系冷水の差し込みは弱く、黒潮系暖水の波及と昇温により、表面水温の負偏差は解消されたが、下層では負偏差が継続していた。10月: 親潮系冷水が差し込み、黒潮からの暖水波及がないことから、水温は全般的に「低め」であった。11月: 親潮系冷水が差し込み、犬吠埼及び鹿島沖の黒潮域を除いて、水温は「低め」であった。	12月: 親潮系冷水の差し込みが継続し、鹿島灘には暖水舌が形成されている。	親潮系冷水の差し込みが継続するため、全般的に「低め」傾向で、暖水舌が形成される鹿島灘では断続的に「平常並～やや高め」で推移する。	房総沖の黒潮の離接岸変動が1～3月は現況どおり接岸傾向で推移すると予測されている(中央水研)。近海の黒潮の北限位置が平常並～やや南寄りから暖水舌が断続的に形成されている。三陸・常磐海域には冷水域が存在し、今後も持続する。現況がしばらく持続すると考えた。	<ul style="list-style-type: none"> 春シラス漁が不漁(4～7月: 船曳網)。 コチの水揚量が多い(7月～: 建網)。 沿岸のカツオ漁が不漁(9月～: 竿釣・曳釣)。 ヤナギダコが豊漁(7～8月: パイ籠, 9月～: 底曳網)。 夏季としては規模の大きな冷水が常磐海域に分布した(8月)。 イセエビが昨年に続き豊漁(6～11月: 建網, 底曳網)。 ボタンエビが昨年に続き豊漁(9月～: 底曳網)。
--	---	---------------------------------------	--	--	--

各階級の水温年平均偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	4.0 ~ +5.9	+1.6 ~ +2.3	+2.5 ~ +3.9	+2.5 ~ +3.9
やや高い(20%)	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	1.5 ~ +3.9	+0.7 ~ +1.5	+1.0 ~ +2.4	+1.0 ~ +2.4
平常並み(40%)	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	1.4 ~ -1.4	+0.6 ~ -0.6	+0.9 ~ -0.9	+0.9 ~ -0.9
やや低い(20%)	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	1.5 ~ -3.9	-0.7 ~ -1.5	-1.0 ~ -2.4	-1.0 ~ -2.4
低い(7.5%)	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	4.0 ~ -5.9	-1.6 ~ -2.3	-2.5 ~ -3.9	-2.5 ~ -3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~